

平成28年度実施（27年度採択）中央区協働提案事業評価結果報告

この報告は、中央区協働事業提案及び協働事業実施要綱第13条第2項に基づき、中央区協働推進会議から中央区長に報告するものである。

1 評価の対象とした事業

ペットの適正飼養及びマナー普及のための語り場運営事業

協働団体：動物と暮らしやすいまちづくり会

区担当部局：福祉保健部生活衛生課

2 評価結果

別紙「中央区協働提案事業評価結果報告書」のとおり

3 評価経過

平成29年2月 7日 中央区協働推進会議による実施報告会

平成29年2月13日 中央区協働推進会議による事業評価

4 評価方法

協働団体及び区担当部局から提出された実施報告書及び実施報告会を踏まえ、下記評価基準に基づき、全委員協議のうえ共通認識のもと評価した。

（評価基準）

（1）事業の成果に関する評価

事業目的の達成度、事業実施における効率性・効果、受益者の満足度

（2）協働の取り組みに関する評価

団体及び区の役割分担、相互理解・パートナーシップ

（3）総合評価

事業継続の必要性

中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	ペットの適正飼養及びマナー普及のための語り場運営事業		
実施団体	動物と暮らしやすいまちづくり会		
担当課	福祉保健部生活衛生課		
目的	人がペットとともに暮らすうえでの諸課題について、各回異なるテーマを設定したカフェ(少人数で気軽に語り合う場)を実施する。テーマごとに専門家、活動家をゲストに招き、参加者間の交流を通じて、ペットの適正飼養について意識を高めつつ、仲間づくりを行う。		
事業の概要	人とペットとの諸課題について語り合うカフェの開催(年7回程度)		
実績	①事前説明会 1回 32人 ②コミュニティカフェ 6回 159人	事業費	1,721,000円
評価	A:高く評価できる B:評価できる C:どちらかという評価できる D:あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価		推進会議評価	
事業の目的は達成できたか		B	
<p>コミュニティカフェスタイルで参加者間の交流を通じて、ペットの適正飼養について意識を高めつつ仲間づくりを目標としていたが、本事業がマナー向上や予防接種受療向上といった当初掲げられた目的を達成したかと言えば不十分であったと言わざるを得ない。しかしながら、動物飼育家のピアコミュニティを形成し、適正飼養の考え方や飼養に向けての態度形成を啓発しようとした目的はある程度達成されている。今後さらに参加者層の拡大を図るための目的の再指定が必要である。</p>			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか		A	
<p>担当課が日常的に抱えていた不適切な動物飼養の状況を改善するため、カウンターパートナーとしての意識に根ざして本事業を実施しようとしたことは協働の方向性として評価される。対話型住民意識啓発という行政では容易に取り組みにくい手法を用いることができたのは団体との関係を構築できたからであるといえ、その点では協働性は一定の程度担保できた。動物飼育の専門家や災害時のペット飼育に関する対応など新たな課題が明らかになった点でも協働の成果は大きいといえる。</p>			
受益者の満足度はどうであったか		B	
<p>実施されたアンケート結果からは明確にどのようなことが受益者にとって満足されたかは定かになっていないが、カフェの参加者の満足度は一定の程度で高かったと考えられる。しかしながら、比較的一回あたりで事業のねらいからすると多額の資源投下を行っており、その対費用効果で考えると、バランスのいい満足度とはいいがたい。また飼っているペットが犬と猫では会話内容が違うとするとその対応も必要である。いずれにせよもう少し少額の資源によって同等の効果を得る工夫をする必要がある。</p>			

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価	
団体と区との役割分担はうまくできたか	A	
<p>事業全体からみると担当課と団体との関係はおおむね良好であったと考えられる。もう少し事業展開全体について、区の行政課題を反映すべく内容の詳細について意見交換を重ねる必要があった面も否定できない。担当課からも積極的な事業進行への建設的な発言はあってもよいだろう。</p>		
協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)	B	
<p>従来、区の行政に対して協力経験のあった区民を中心に始められた事業でもあり、区の課題に対して意識的に事業展開を心がけた点では相互理解やパートナーシップは一定の程度で醸成されたとみられる。ただし、目的の共有と目標の一致、そして事業の進行管理についての相互の情報提供は綿密に行われるべきである。区側からもう少し区民の実情について情報共有を図るべきである。今後は、区の行政課題を団体が明確に認識し、その課題解決に向けてどのような事業構築ができるかを検討する必要がある。</p>		
総合評価コメント		
継続すべきである	一部修正を要するが継続すべきである	再検討を要する
<p>区内の動物飼養についての意識啓発を区民の自発的なピアコミュニティを形成することによって推進していくとする事業姿勢そのものは評価できる。しかしながら、コミュニティカフェの運営による飼養意識の向上と具体的なマナー向上との関連性を十分検討したうえで、適正な資源投下により、所期の効果を挙げうる事業構築に向けて再度検討が必要と思われる。また、事業成果の公表の仕方についても区民に訴えかけやすい工夫が求められる。さらに、自主的な意識啓発グループの形成も含めて、担当課と団体との間で今年度の事業展開についての事後評価を適正に行った上で、事業目的の再措定を視野においた事業運営のプロトコルを明確にする必要がある。その上で継続を検討すべきである。</p>		